

## 小林道場での合気道三昧の日々 ドブローカ・ミハイ



僕が合気道を始めたのは 12 歳のときでした。ハンガリーで小林道場に入って合気道を一生懸命やってきました。それから 21 歳になった僕は弘前大学の交換留学生として日本に来ることができました。弘前大学の合気道部に入って授業が終わった放課後、毎日稽古していました。三月は大学の春休みで授業がないので、一日中好きなことだけをやりたいたいと思い、小林道場の短期住み込み修行の参加を決心しました。

しかし、そう甘くはなかったです。僕は一日中夢中で合気道ができると想像していたのに現実は大変厳しかったです。内弟子は仕事が多くて、朝は 5 時ごろ起きて、道場の掃除、小林先生の道着の洗濯、金曜日であれば先生方の朝食を作らないといけませんでした。寝不足と稽古による筋肉痛がつらくて、初めの頃は気分が沈んだこともしばしばありました。一週間経つと道場での生活に身も心も慣れて内弟子の仕事や合気道の稽古も張り切ってできるようになりました。内弟子の仕事は確かに忙しかったけれど、それを通して合気道の技だけではなく、時間効率を考えて仕事をすることを学びました。精神的な強さも身につけました。さらに先生の袴を畳んでいるとき、着替えを手伝うと先生と話す機会もありました。これは内弟子しかできない貴重な体験だと思います。

小林道場にいたのは一ヶ月間しかありませんでしたが、三月は行事が多い時期でした。道場に来て三日後小林先生の講習会がありました。講習会ではレベルごとに分かれて稽古して有段者向きの技を習いました。三週目の日曜日に本部道場で級段審査が行われました。



二段を受ける根本さんの受けを引き受けました。そして住み込み修行の最後の日には幸運なことに演武大会があり、ここで一ヶ月間の稽古の成果を皆に披露することができました。小林先生やバーバラ先生の受けをさ

せて頂きました。演武大会の後に花の季節にはまだ少し早い花見会がありました。花は咲いてなかったけれど、美味しい食べ物をたくさん食べたり先生たちと話したりできて最後の良い思い出になりました。

一ヶ月間という短い期間でしたが仲良くしてくださった皆さん、熱心に指導してくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。誠に有難うございました。大変お世話になりました。一ヶ月間の経験を大切にしてこれからの努力につなげたいと思います。

